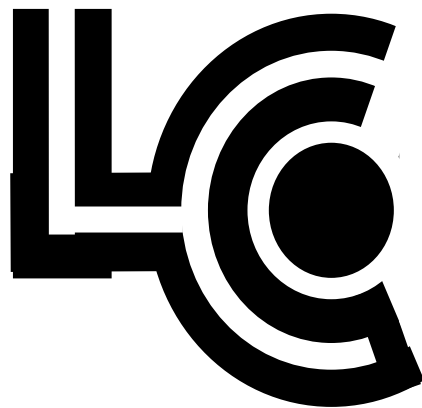


令和4年（2022年）5月11日
第1回 教育研究所 運営に関する懇話会

令和3年度(2021 年度)
成 果 と 課 題



横須賀市教育研究所

担当	【研修・調査研究担当】一研修一											
目標と方針	<div>1 教師として求められる資質・能力、指導力の向上を図る</div> <div>(1) 基本研修において、経験年数に応じた資質・能力及び指導力の向上を図る。</div> <div>(2) 選択研修において、学力の向上に向けた教師の授業力向上、教育課題、学校づくりなど系統的な研修講座を提供する。</div> <div>2 学校組織の活性化と人材育成を図る</div> <div>(1) 各学校において組織的、計画的な人材育成が図れるよう、学校づくり、コミュニケーション能力、集団づくりなど実践的な研修内容を充実させ、校外研修の内容を還元し、校内研修との連動を図る。</div> <div>(2) 各学校において協働性を生かした校内研修・研究が推進されるよう積極的な訪問支援研修を行う。</div> <div>【具体的な活動】</div> <div>1 教師として求められる資質・能力、指導力の向上を図る研修</div> <div>喫緊の教育課題に応じた研修、コミュニケーション能力の向上、指導力向上を図る研修などを実施する。</div> <div>2 学校組織の活性化と人材育成を図る研修</div> <div>職に応じた研修や、学校づくり、あるいは訪問支援研修を実施する。</div>											
成果	<div>1 教師として求められる資質・能力、指導力の向上を図る研修の展開</div> <div>(1) 基本研修</div> <div>・研修内容や、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら、オンラインでの研修を取り入れた。オンラインでも一方的な講義形式の研修とならないよう、グループ形式での対話的な内容を取り入れ、お互いの学びを共有できるようにした。評価用紙からは、「パソコン上ではありますが、本当に交流できているようで有意義な時間でした。」「久しぶりに顔を合わせる同期の方々を見て、こちらでも少し元気をもらうことができました。」など、同じ経験年数の教員同士で、横のつながりの大切さを再確認する記述も見ることができた。</div> <div>・基本研修に位置付けている教職1・2・5年経験者研修では、研修後の評価用紙とは別に、研修の内容を校内で活用することを意識づけるため、研修活用レポートの提出を設定している。特にそれぞれの研修で学んだ「授業づくり」に関しての実践が多く、個を見取る大切さや単元を通した授業づくりを意識して、実践をしている記述が見られた。また、実践することで校外研修の内容を自分事として捉え、振り返りを行っている様子がうかがえた。</div> <div>・すべての基本研修において、系統性をもったインクルーシブ教育、人権教育の研修を取り入れ、子ども一人一人を大切にした指導や教師に求められる人権意識の涵養につなげることができた。また、子どもと向き合う環境づくりの一環としてセルフマネジメント研修を取り入れ、タイムマネジメントやメンタルヘルスなど、自分の仕事と向き合うことにつなげることができた。また、本年度からは「1人1台端末の活用」に関する研修を取り扱い、授業での活用に向けた研修を行うことができた。</div> <div>・指導主事が研究授業を参観し振り返りを行うことで、具体的な授業づくりについて実践的に学ぶ機会を保障することができた。(初任者研修・中堅教諭等資質向上研修)</div> <div>(2) 選択研修について</div> <div>・本年度は8月に緊急事態宣言が発令されたが、オンライン研修への切替を行い、中止を3講座のみに留め、研修機会を確保することができた。授業日開催のパワーアップ研修講座、土曜日開催のスキルアップ研修講座も本年度はすべて開催することができた。内容も授業実践を数多く行っている講師を招聘し、例年を上回る多くの申込みがあった。</div> <div>★パワーアップ研修・スキルアップ研修受講者比較</div> <table><tr><td>研修名</td><td>R 1年度</td><td>R 2年度</td><td>R 3年度</td></tr><tr><td>スキルアップ研修</td><td>54名 (全3回)</td><td>64名 (全2回)</td><td>132名 (全3回)</td></tr></table>				研修名	R 1年度	R 2年度	R 3年度	スキルアップ研修	54名 (全3回)	64名 (全2回)	132名 (全3回)
研修名	R 1年度	R 2年度	R 3年度									
スキルアップ研修	54名 (全3回)	64名 (全2回)	132名 (全3回)									

		パワーアップ研修	67名（全5回）	31名（全2回）	77名（全5回）
	2	学校組織の活性化と人材育成を図る研修の充実			
		講座名	受講者に校内に関わった教職員数の割合 ※（ ）は前年度		
		初任者研修	93.4%（89.3%）		
		教職1年経験者研修	22.2%（23.2%）		
		教職2年経験者研修	22.5%（22.2%）		
		教職6年経験者研修	22.2%（27.9%）		
		中堅教諭等資質向上研修	18.6%（17.4%）		
		全体平均	41.1%（37.7%）		
		(令和2年度 基本研修実態調査)			
		・基本研修受講者の研修報告書から情報を整理し、上表の傾向を知ることができた。このことにより、基本研修におけるペアまたはグループによる校内研修が、コロナ禍においてもOJTを促進するきっかけとなっていることがわかり、本年度の基本研修でも引き続き校内研修の重要性を伝えることができた。特に中堅教諭等資質向上研修では、1年間を通じてOJTを意識して研修を行い、受講者の振り返りでもその意識が見られるようになった。			
		・今年度から人権教育に関する業務を教育研究所が担当し、人権教育担当者研修及び人権指導者養成研修講座を行った。人権指導者養成研修講座では、本年度受講者所属校の15校で人権教育に関する研究授業を指導主事が参観し、校内の人権教育の推進につながるよう指導助言を行った。			
		・サポート研修、校内研究ファシリテート研修等の訪問支援研修の周知を図ることができた。また、実際に依頼のあった小・中学校に定期的に指導主事が訪問し、対象となる教諭の授業力向上に一定の役割を果たすことができた。			
課題	1	研修内容の精選、検討			
		・本年度もコロナ禍によって急遽オンラインに変更した研修が少なかった。元々オンラインを想定していなかった研修については、急な内容変更にも苦慮することもあった。急な変更でも対応できるよう、より充実した内容を柔軟に対応できるよう検討していく。研修の内容について、これまでも精選を行ってきたが、今後も教育現場の動向を鑑みながら、充実した内容をタイムリーに提供し、柔軟に対応できるよう、研修内容を検討していく必要がある。			
	2	「新たな教師の学びの姿」の実現に向けて			
		・令和3年11月に中央教育審議会から「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて」の審議まとめが提出された。その中には「学びの成果の可視化」の重要性が書かれている。今後も国や県の動向に注視し、教員が研修成果及び研修履歴を可視化できるよう、これまでの研修評価用紙や年間報告書についても、検討していく必要がある。			

担当	【研修・調査研究担当】－理科教育－
目標と方針	<p>3 理科研修や資料提供を通し、教師の授業力向上及び学習環境づくりに寄与し、理科教育の充実を図る</p> <p>【具体的な活動】</p> <p>3 理科の学習環境の充実</p> <p>(1) 理科研修</p> <p>理科教育研修講座（教員対象の理科関係研修講座 年間9回）</p> <p>(2) 児童生徒の学習意欲を向上させる観察・実験のための理科室整備</p> <p>① 実験観察教材・情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物教材の維持管理（微小生物、メダカ等）を行う。 ・生物教材の斡旋、提供（ジャガイモ、サツマイモ、カイコ卵、堆肥等）を行う。 ・実験教材の研究開発、情報提供、理科教材展示（常設）の展示を行う。 ・理科実験室、理科機器（教具）の貸し出しを行う。 ・実験観察に関する情報提供・協力を行う。 <p>② 教育情報センターホームページ内の理科関係データ更新・追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イントラネット 「理科なび」…データの更新・追加、内容の見直し ・インターネット 「三浦半島の植物」「三浦半島の地層・地質」「三浦半島の野鳥」 <p>③「薬品管理マニュアル」（令和2年3月改訂）の周知と活用の推進</p> <p>④「学校が保管する薬品の管理状況の点検および報告」の実施</p>
成果	<p>(1) 理科研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で、理科基礎技術研修講座が1回と教材研究講座が2回中止となったが、理科基礎技術研修講座5回と科学教養講座1回を行うことができた。実践を踏まえた内容の研修を中心に行い、受講者の報告書からは、「昆虫の生態のおもしろさを感じ取ることができました」「実践的な理科室の運用方法がとても参考になりました」など理科教育に対する前向きな記述が多く見られた。 ・パワーアップ研修講座を、15:30 開始の学校訪問型で1回行うことができた。参加者の総数は10名であった。講師はコア・サイエンス・ティーチャー（以下「CST」）2名と教育研究所指導主事が行った。理科における安全指導・薬品管理の在り方についても取り上げ、啓発を行った。 ・学校訪問型の研修を行った結果、会場校所属の教員の参加が見られ、授業づくりへの手立てや工夫を伝えることができた。 ・開催校から直接ニーズを聞き取り、ニーズに沿った研修を実施することができた。 <p>(2) 理科室整備・教材や情報の提供</p> <p>①教材斡旋・教材提供・教具貸し出し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャガイモ、サツマイモ、カイコ卵を、市立学校に斡旋した。 ・例年、中学校でニーズがあるオオカナダモについて、室内での栽培を行い、希望する学校に提供できる体制を維持している。 ・ホウセンカなど、研究所の花壇を活用して栽培した植物教材を、より多く提供できる体制を整えている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・県立総合教育センターの協力のもと、4月に希望の多い水中の微小生物を中学校に提供し、各学校の授業で顕微鏡による観察が行われた。また、人工気象器を用いて維持管理し、小学校からの5～9月の提供依頼に対応することができた。ミジンコについては室内での飼育を行い、年間を通して提供できる体制を整えている。 <p>②情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イントラネット「理科なび」の充実を図り、写真資料や実践資料等を中心とした情報発信を行った。 <p>③薬品管理マニュアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年3月改訂の周知と活用のために、初任者研修やパワーアップ研修の内容の一部に取り上げた。 ・各学校を訪問し、教員も子ども達も使いやすい理科室・理科準備室となるように、実験器具や薬品等の保管や管理について、状況を確認し指導・助言を行った。 <p>(3) 学力向上のための学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイエンスサマー2021を行い、午前と午後に20名ずつ、計40名が参加した。CST7名の指導のもと、5つの理科ブースに分かれ充実した学習支援を行った。 ・研究集録への出品を募り、58点の出品があった。 ・土曜科学教室を年間8回を計画し、12月までに1回が中止、5回を行った（残り2回は1月29日、2月19日）。毎回募集人数20名を上回る希望があり、受講した子ども達は、実験を通してさらに理科に興味を持つ様子がうかがえた。
課題	<p>1 授業支援・学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校においては、理科の授業を行った経験が少ない教員や非常勤講師等が理科の授業を担当するケースがある。安心して理科授業や実験・観察に取り組めるよう、すぐに授業で活かせる内容など研修のニーズを絶えず探りながら研修を企画・運営していく。 ・今後もCSTの活用と合わせ、理科授業に長けたリーダーを育成するための研修を構築する。 ・小中学校の理科研究会とより一層連携を図り、「わかる授業」の充実につなげる。 ・サイエンスサマーを引き続き実施し、児童の自由研究への取組をサポートする。 ・貸出物品の各学校における活用を促進する。貸し出しの際には、使用方法の確認や工夫、予備実験をサポートするなど具体的な活用のイメージやより良い活用を伝えていく。 <p>2 資料・情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イントラネット「理科なび」の更なる充実を図り、資料提供及び周知を広げていく。 <p>3 学校における薬品管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬品管理を含む理科室環境の整備については、薬品の適切な管理を促すとともに、その方法についても研修や担当者会を通じて丁寧に周知していく。 ・薬品の管理状況の報告についてもその方法を見直したので、各学校の理科室環境についても学校訪問を活用しながら、その状況を把握し、必要に応じて指導助言を行っていく。

担当	【研修・調査研究担当】－調査研究及び資料・情報提供－
目標と方針	<p>4 教育に関する専門的及び技術的事項の調査・研究を推進し、その成果を還元する</p> <p>5 市内外の教育に関する研究や資料、研修図書等を収集し、発信する</p> <p>【具体的な活動】</p> <p>4 市内及び他機関との連携による研究及び資料収集</p> <p>(1) 長期研究員による研究</p> <p>(2) 教育研究所連盟</p> <p>(3) 横浜国立大学教育学部附属教育デザインセンター及び横浜国立大学教職大学院との連携</p> <p>5 教育に関する資料・情報の収集・発信</p> <p>(1) 授業づくりのために役立つ指導案や教材教具などの収集・発信</p> <p>(2) 教育研究所図書資料室の機能の充実</p> <p>(3) 教育情報センターの充実（教育情報の蓄積、共有化）</p>
成果	<p>4 市内及び他機関との連携による研究及び資料収集</p> <p>(1) 長期研究員による研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期研究員として、大津中学校板越秀介教諭が「1人1台端末の活用を通して、情報活用能力を身につける授業づくり」を研究テーマとし、大津中学校2年生を対象に実態調査、検証授業、事後アンケートを行った。本年度は、アドバイザーとして、横浜国立大学山本光教授にご助言をいただき研究を進めている。令和3年度研究成果発表会は、令和4年2月28日（月）を予定している。 <p>(2) 教育研究所連盟</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県教育研究所連盟教育研究発表大会において、研究成果の要旨報告書による発信を行った。 「プログラミング教育 ―C 分類から始める実践の重要性―」 (提案者：令和2年度年度長期研究員 明石 翔太教諭) ・神奈川県教育研究所連盟研究協議会「教育課題部会」を開催した。 実践報告「1人1台端末の活用状況について」(ICT活用推進担当) 講演「1人1台端末活用で変わる子どもたちの学び」(講師 関東学院大学 教授 元木 誠 氏) ・全国教育研究所連盟及び関東地区教育研究所連盟の各発表大会に出席し、国、他県、他市町村の資料を収集し、当研究所の運営や調査研究の参考にした。 <p>(3) 横浜国立大学教育学部附属教育デザインセンター及び横浜国立大学教職大学院との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期研究員講習会など教職大学院主催の講習会等に参加できる体制を整えるなど、連携を進めた。 ・神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市教育委員会と横浜国立大学教育学部との連携協議会に参加し、各自治体からの情報収集に努めた。 ・横浜国立大学教職大学院非常勤講師として、授業を行った。 <p>5 教育に関する資料・情報の収集・発信（令和3年12月28日現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度前期分として、30冊の図書を購入し、累計として蔵書は26,890点、教育ビデオは195点、DVDは107点になった。また、保管している市内各学校や各地の研究機関・大学・学校・出版社等から寄贈された紀要及び研究発表資料は361点増え、25,943点になった。 ・本年度、図書の貸出は192点、DVDの貸出は11点、資料の貸出は2件、問い合わせ・相談等は7件であった。 ・横須賀市の戦後の「教育史」の編集に向けて、資料の収集・整理に取り組むとともに、教育史編纂プロジェクトチーム会議を運営し、原稿の執筆作業を進めた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・新規購入図書が、よりわかりやすいようにイントラ図書資料室のページを工夫した。また、新規購入図書の一部を所内フロアに展示し、利用促進に努めた。 ・教科書展示会は受付では、基本的な感染予防策を実施し、閲覧席は距離をおいて向かい合わせにならないように工夫した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度の長期研究員の成果について、各学校に理解していただけるように報告会を充実すること ・他自治体や他課との連携による研修をよりいっそう深めた調査研究を進めていくこと ・様々な研究の成果や手引き、教職員のニーズに応じた授業に役立つ資料などを引き続き発信する、また発信方法を検討すること ・教育情報センターとして、学習指導案など様々な教育コンテンツの収集、作成、発信をしていくこと ・戦後の「横須賀教育史」の完成に向けて、より一層の資料の収集・整理に努めること

担当	【教育研究所（教育情報担当） I C T活用推進担当】
目標と方針	<p>1 学校における「教育の情報化」を推進する</p> <p>(1) GIGA スクール構想の実現に向けた取組を進める</p> <p>(2) 1人1台端末の活用を推進する</p> <p>(3) 指導場面における「教育の情報化」につながる研修を充実する</p> <p>(4) 校務処理場面における「教育の情報化」につながる研修を充実する</p> <p>(5) オンライン学習に関する内容の検討</p>
成果	<p>(1) GIGA スクール構想の実現に向けた取組</p> <p>(2) 1人1台端末活用の推進</p> <p>ア 中学校への訪問</p> <p>イ 年次研修での1人1台端末活用を踏まえた研修</p> <p>・初任者研修、1年次経験者研修、2年経験者研修、5年経験者研修・中堅教諭等資質向上研修</p> <p>ウ 夏季研修講座を利用した研修会の実施</p> <p>(ア) Google Kickstart Program (7月27日) 講師: Google スタッフ</p> <p>(イ) プログラミング授業実践 (7月30日) 講師: 横浜国立大学附属小学校 教諭</p> <p>※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止</p> <p>(ウ) ミライシード活用研修 (8月6日) 講師: ベネッセコーポレーションスタッフ</p> <p>(エ) GIGA スクール実現 実践ワークショップ 講師: NHK 放送局スタッフ</p> <p>エ 全小学校を対象とした研修会の実施</p> <p>オ ICT 支援員と連携した定例報告会の実施</p> <p>カ ICT 授業支援サポーター派遣</p> <p>・教科指導における ICT を活用した分かりやすい授業を支援することを目的として、サポーターを派遣する事業を実施している。本年度については、主に Google アカウントの初期設定のため学校を訪問した。</p> <p>キ イン트라ネットを利用した ICT 活用通信の発行・学習支援ソフト (ミライシード) 活用のための資料・マニュアルの作成</p> <p>(3) 指導場面における「教育の情報化」につながる研修の充実</p> <p>ア プログラミング教育 (理科) に係る研修 (悉皆) (8月24日、25日)</p> <p>講師: 教育情報担当課指導主事</p> <p>※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面及びオンデマンドによる実施</p> <p>イ 情報セキュリティの保持に関する取組</p> <p>・情報セキュリティ月間において、教職員の啓発の取組を行った。(年間3回)</p> <p>(4) 校務処理場面における「教育の情報化」につながる研修の充実</p> <p>ア 研修会の実施</p> <p>(ア) 新任教頭研修講座 (4月16日)</p>

対象 新任教頭

内容 年度初めの校務支援システムの操作に関すること

(イ) 校務情報化研修（7月9日、7月14日、7月16日）

対象 総括教諭、教諭

内容 前期通信簿入力に関すること

(ウ) 健康診断票作成研修（各学校の希望日 全17回）

対象 総括教諭、教諭、総括養護教諭、養護教諭

内容 健康診断票の入力に関すること

(エ) 校務情報化研修（2月16日、2月18日、2月25日）

対象 教頭、総括教諭、教諭

内容 後期通信簿入力に関すること 要録の入力に関すること

イ 新校務支援システム運用に関すること

(ア) 業者との定例報告会

(イ) 新校務支援システムに関する資料の作成

ウ 通信簿作成に関する取組

・横須賀市内小学校・中学校の通信簿を管理し、各学校からの依頼を受け通信簿の作成・修正を行った。

エ 調査書作成に関する取組

・令和3年度の調査書に対応するため、調査書の作成・修正を行った

(5) 学校情報化推進部会の開催

教育の情報化を進めるための検討組織として、学校情報化推進部会の各分科会を開催した。

第1分科会

学籍名簿、各種帳票管理に関する仕様及び運用に関すること

校務支援システム全般に関する仕様及び運用に関すること

校務支援システムの更改に関すること

校務用PCの仕様及び運用に関すること

学校HPに関すること

第2分科会

成績・時数処理に関する仕様及び運用に関すること

校務用PCの仕様及び運用に関すること

校務支援システムの更改に関すること

学校HPに関すること

第3分科会

保健機能の仕様及び運用に関すること

健康診断票について

健康診断票訪問研修について

第4分科会…休会中

	<p>第5分科会</p> <p>授業における ICT 活用や情報教育の推進に関すること</p> <p>GIGA スクール構想に関すること</p> <p>(6) オンライン学習に関する内容の検討</p> <p>教育指導課・支援教育課と連携をしたオンライン授業などの取組の検討</p>
課題	<p>1 教育の情報化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化に対応した学校における ICT 環境の在り方を検討すること <p>2 1人1台端末の充実と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校での1人1台端末の活用を進めること

担当	【教育研究所（教育情報担当） I C T環境整備担当】
目 標 と 方 針	<p>【目標と方針】</p> <p>1 学校情報基盤を保守管理し、学校における教育の情報化を推進する。</p> <p>（1）よこすか教育ネットワーク（YKNet）環境の保守管理。</p> <p>（2）各学校に配備している ICT 機器の保守管理。</p> <p>（3）利用者 I D、パスワードの管理。</p> <p>2 横須賀市教育情報センターホームページ等を保守管理し、教育委員会内外への情報発信を推進する。</p> <p>【具体的な活動】</p> <p>1 学校情報基盤の保守管理</p> <p>（1）よこすか教育ネットワーク環境の稼働を維持するため、サーバ類の更改、保守管理を行う。</p> <p>（2）教育用パソコン、校務用パソコン等の調達業務と保守管理を行う。</p> <p>（3）校務支援システム関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システム事業者と調整し、契約事務を行う。 ・教職員・児童生徒の情報を登録し、名簿管理を支援する。 <p>2 横須賀市教育情報センターホームページ等の保守管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横須賀市教育情報センター及び教育委員会ホームページの保守管理 ・「よこすかスクールネット（市立学校のホームページ集）」の保守管理
成 果	<p>1 学校情報基盤の保守管理</p> <p>（1）よこすか教育ネットワーク環境の稼働を維持するため、サーバ類の更改、保守管理を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の Windows ユーザーメンテナンス等 ・ネットワーク機器のバージョンアップ ・ネットワーク機器の更改 <p>（2）教育用パソコン、校務用パソコン等の調達業務と保守管理を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習用タブレットパソコン等の調達、設置 <p>（3）校務支援システム関係の保守管理を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員・児童生徒の校務支援システムへの登録 ・各サーバの障害対応 ・校務支援システムの機器更改 <p>2 横須賀市教育情報センターホームページ等の保守管理</p> <p>（1）イントラ掲載情報の更新を随時行った。</p>

	<p>(2) 年度当初に学校ホームページの掲載内容や更新サイクルに関して不適切なものがないかチェックを行った。</p>
課題	<p>1 GIGA スクール推進計画に基づく機器及びネットワーク整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた予算の中で、費用対効果を勘案しながら、機器種別と機種選定、及びネットワークの整備を進めていく必要がある。 <p>2 PCの定期的な動作確認の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に起動されない、または再起動の行われないPCが散見される。このような不適切な取り扱いに起因する修理が多くなっているため、ICT活用推進担当と連携してPCの起動確認、取扱いの周知を徹底していく必要がある。 <p>3 PC・プロジェクタ等の所在確認の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、校務系・教育系のPC・プロジェクタ等の所在確認を行っているが、速やかに所在を確認できない状況が続いているため、ICT活用推進担当と連携して管理方法等の周知を徹底していく必要がある。

担当	【管理運営係】
目標と方針	<p>【目標と方針】</p> <p>1 教育研究所業務の円滑な事務事業・連絡に努める</p> <p>(1) 適正で確実な予算執行に努める。</p> <p>(2) 所内各担当及び関係各課との円滑な連絡調整に努め、的確な情報収集・伝達・作業依頼及び集約等を行う。</p> <p>(3) 法令遵守及び的確な事務処理方法について率先して取り組み、効率的に業務を進める。</p> <p>2 施設の円滑な管理・運営に努める</p> <p>(1) 所内外の環境整備に努め、安心・安全な施設管理を行う。</p> <p>【具体的な活動】</p> <p>1 所内の円滑な事務事業及び予算執行調整・連絡</p> <p>(1) 教育研究所全体の予算執行の的確な管理を行う。</p> <p>(2) 教育委員会定例会及び市議会に関する情報収集・伝達・作業依頼及び集約等を行う。</p> <p>(3) 関係各課との円滑な連絡調整を図り、各種報告、連絡、書類作成及び発信事務の遅滞なき履行を図る。</p> <p>(4) 事務及び財務等に関する規程を周知し、業務全般のコンプライアンスについて徹底を図り、効率的な事務処理を率先して行う。</p> <p>2 施設の円滑な管理・運営</p> <p>(1) 所内外全般の環境整備及び美観維持に努める。</p> <p>(2) 施設の工事及び修繕を円滑に行うため、所内外における連絡調整を綿密に行う。</p> <p>(3) 研修用備品等の更新を行う。また、棚卸を行い不要な物品を適正に処分する。</p>
成果	<p>1 所内の円滑な事務事業及び予算執行調整・連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会定例会及び市議会に関する情報収集・伝達・作業について、所内各担当及び関係各課との円滑な連絡調整を実施した。 ・各種報告、連絡、書類作成及び発信事務について、所内への依頼及び取りまとめをすることで、遅滞なく履行ができた。 <p>2 施設の円滑な管理・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画していた「受変電設備の改修工事」、「非常用自家発電機の蓄電池交換」、「電話交換機更新」を行った。 ・自家発電設備、電気設備、消火設備、空調設備等の点検、修繕及び整備を行い、安心・安全な業務環境の維持推進に努めた。 ・令和4年度以降の工事（主に空調設備・照明設備の改修）予算化に向け、関係各所と調整を行った。
課題	<p>1 教育研究所内の環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・築後37年が経過し、建物や機器類の破損や不具合が多発している。財政状況が厳しい中、施設利用者の安全や利用環境を確保するために、修繕個所の優先順位を付けて、財政局等にその必要性を理解してもらい、予算を獲得していく必要がある。